

移住者紹介

憧れていた鹿角の暮らし

宮城県仙台市からアイターン

伊東さやかさん



仙台市で生まれ育った私は、幼い頃から母の実家がある鹿角に何度も足を運んでいました。転職を機に生活する場所を選ぶようになったことで、移住を考えるようになりましたが、何度も訪れたことのある安心感や、パソコン越しに見る移住コンシェルジュの皆さんの生き生きと暮らしている姿が、鹿角への移住を後押ししてくれました。私は、ウェブライターの仕事をしているほか、これまで英会話教室の講師もしていました。鹿角では英語を使う機会がないかもしれないと思っていましたが、コモッセの英会話講座や、私と同じ移住者の方が始めたSNSという英語教室など、鹿角でも英語に触れられる場所があり、それらの教室に通うことは私の密かな楽しみになっています。

移住してみると、鹿角にないものもありあるものに気づくことの方がずっと多く、美味しいアップルパイを見つたり花輪ばやしを観に行けたりと鹿角ならではの楽しみ方を満喫しています。これから冬を迎えるので、雪の心配はありますが、綺麗な水や美しい自然に癒されながら、幼い頃に憧れた暮らしができて、毎日が楽しいです。

宅地・建物データベース

移住者が求める空き家が不足しています

市では、市内の空き家や空き地を貸したい、売りたいという所有者とそれを利用したいという希望者の橋渡しを行っています。

移住を検討している方から空き家に関する問い合わせが多くあるものの、登録物件が不足し、希望に合う物件を紹介することが難しい状況です。

登録して空き家をもう一度住まいへ

市内の物件であれば、現在市内に居住していない方でも登録することが可能です。古い家だったり、家財道具が残っていたり、利用は難しいと思っている方でも、まずは、お気軽にお問い合わせください。

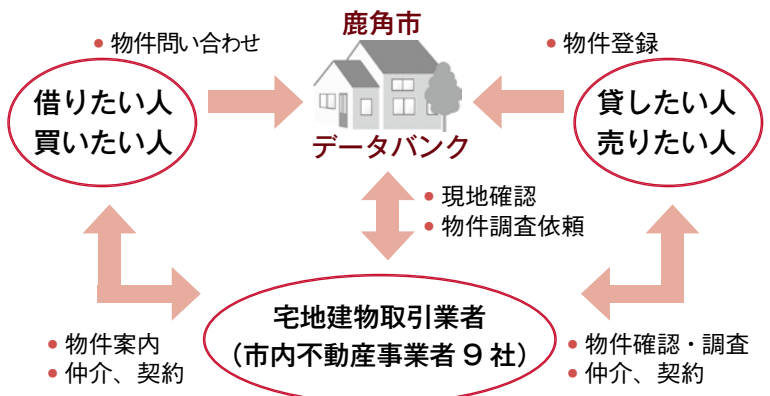
問 政策企画課 鹿角ライフ促進班 ☎30-0208

データベース運営状況

登録物件 40件
(土地 17件、家屋 23件)

成約件数

H26年度 3件
H27年度 6件
H28年度 10件
H29年度 6件(10月末)



陸前高田市から

震災復興派遣職員 中島主事のレポート

本市では、震災被災地の復興支援のため、今年4月から岩手県陸前高田市へ職員を派遣しています。赴任から約半年が過ぎた職員から、陸前高田市の現状や体験をお伝えします。



戸羽 陸前高田市長（左）と中島主事（右）

被災地復興のため役立てることがあればと思い、4月から派遣職員として陸前高田市会計課に赴任した中島静香です。

陸前高田市は、岩手県南東部の太平洋沿岸に位置し、気候は岩手県内で最も温暖なところではあります。

赴任してからの約半年の間に、家が建ったり、施設が完成したり、店がオープンしたりと日々変わっていくまち並みに、着実に復興は進んでいると感じています。しかし、これは震災前の陸前高田市を知らない私の感想であり、こちらの方々から聞く当時の状況を思うと「陸前高田市民にとっての復興」はまだまだなのだと思います。派遣職員として、また住民として、自分にできることを模索しながら復興支援にあたりたいと思います。



中心市街地にオープンした大型商業施設「アパッセたかた」

陸前高田市の見どころなど

陸前高田市ゆめ大使☆「たかたのゆめちゃん」



奇跡の一本松

陸前高田市を見守り続けてきた、約7万本もの松林のうち、津波に耐えて奇跡的に残ったただ1本の松は復興のシンボル「奇跡の一本松」として保存され、毎年多くの観光客などが訪れています。



ご当地グルメ『陸前高田ホタテとワカメの炙りしゃぶしゃぶ御膳』

広田湾産の活ホタテ、ワカメ、ブランド米「たかたのゆめ」をはじめ地域の魅力が凝縮された御膳を、地元職人の手で作られた「気仙杉」の盆にのせて提供します。活ホタテを「刺身&昆布締め」、「炙り」、「かき揚げ」の3種類に調理し、のせた「ホタテ3段タワー」や、シャキシャキした食感が楽しめる「ワカメしゃぶしゃぶ」をご賞味ください。



戸羽 太 陸前高田市長から

本年4月より、職員を派遣いただきまして心から感謝申し上げます。東日本大震災により、本市では多くの尊い生命や貴重な財産を失うとともに、市街地をはじめ市内各地で壊滅的な被害を受けましたが、これまでに、全国各地のたくさんの皆様から温かいご支援を賜り、高台移転による住宅再建や災害公営住宅の建設など、少しずつですが復興の姿が見えてまいりました。新たな中心市街地が形成されるかさ上げ地では、大型商業施設「アパッセたかた」がオープンし、併設の市立図書館も開館を迎えるなど、なりわいの再生に向けて、商業エリアの事業進捗を図っているところであります。

しかしながら、災害復旧・災害復興には、多くの課題が山積し、現在も約1500人の市民が仮設住宅での生活を余儀なくされており、安心して暮らせるまちづくりを進めるためには、まだまだ多くの支援が必要と感じているところであります。被災された方々の一日も早い心のケア、心の復興を果たすために、子どもから高齢者まで市民みんなが活躍し、いきいきと笑顔で過ごせるノーマライゼーションという言葉のいないまちの実現に向けて、力の限りを尽くして邁進してまいりますので、末永い応援を賜りますようお願い申し上げます。



大規模なかさ上げ工事による市街地造成